

# 若者語におけるル言葉について

## ～アンケート調査の分析～

鄭 香 蘭

### 1、はじめに

米川 (1996) は「る」ことばについて述べており、動詞化する接尾語「る」をつける方法で、どんな語にも付くとしている。本稿では、米川 (1996) の「る」ことば」という命名を受ける形で、以下「ル言葉」と表記したい。ル言葉は現代若者語の一種で、動詞化する接尾辞「る」をつける造語法である。つまり、述語動詞を「る」で代行させて、「デニズで食事をする」というところを「デニる」、「事故を起こす」というところを「事故る」と短く簡潔に表す言葉である。ル言葉は近年始まったことではなく、昔から造語能力の強いものであって、江戸時代からあったようである。1841年(天保12年)の『春色梅美婦欄』の中には「盗賊(どろぼう)を退治るつもりで出かけやせう」という例が載っている。若者語といえば流行語みたいに生まれては消えてしまい、死語になった言葉もあるし、長い間使われている言葉もあって、俗語ではあるが、広辞苑などの辞書に載っている言葉もある。どんな語が若者同士で使われやすく、長く使われているのであろうか。若者語であると言っても、年齢を問わず広く用いられる語もあるのではないかと調べてみたい。ル言葉を見ると、「サボる」のように外来語から変化したものもあれば、「事故る」のように漢語から変化したものもある。さらに、「きゃびる」のように「きゃびきゃび」という擬態語から変化したものもあり、語構成は様々である。それぞれのル言葉はどんな特徴があるのか。若者語のル言葉は言葉の乱れと問題視されている。歴史の流れにつれて言語が変化するのとは当然のことである。普段何気なく使っているル言葉は、使う相手を間違えると逆にコミュニケーションの妨げとなる。しかし、一方で仲間の連帯感を深めるには欠かせないものとされている。ル言葉をただ、言葉の乱れとしてとらえてよいものであろうか。

### 2、先行研究

稲垣 (2006) は「若者ことばクロニクル」で、若者ことばの一種の略語について述べている。つまり、尻尾に「る」をつけて縮約する、いわゆる「ることば」というものである。こういう「ることば」は若者造語らしく、遊戯性があり、現代の若者ことばの特徴と言っている。窪蘭 (2006) は「若者ことばの言語構造」で、名詞の短縮形から派生し、基本的に名詞の語頭の2モーラ(拍)を残し、「る」を付けて動詞化した形について述べている。窪蘭 (2006) はこういう動詞造語を音韻論的に説明している。今も昔も、若者言葉に見られる短縮語の大半は、「初めが肝心」という略語の大原則に従い、さらには、「語頭の二モーラを残す」という日本語の伝統的な規則にも従っていると述べている。「ることば」は一昔前の流行語と同じく、「語頭

の二モーラを残す」という伝統的な規則に従っているのであると言っている。しかし、「スタバ+る」のように語頭三モーラを残した短縮形も見られるが、これらも音韻論的に説明のつく例外であると述べている。三宅(2002)は「乱れ」と規則性として、日本語の乱れと言われる現象の一種、品詞転換としてのル動詞について述べている。ル動詞とは語尾に直接「る」を付けて動詞化するという現象であると言っている。三宅(2002)は「乱れ」と規則性の関係を探り、アクセントと文法から「乱れ」という現象の規則性を指摘している。アクセントに関して共通性を持っているのは、必ず「る」の直前に「アクセント核」(音の下降がある部分)が置かれるということで、文法的に共通性を持っているのは、ル動詞は全て五段型の活用をすると言っている。ただし、日本語教育におけるル動詞は別概念である。

### 3、調査の目的

近年、「若者語」という言葉を耳にするようになり、注目されている。若者語は若者が主に友人同士で使用し、大人が理解に苦しむこともしばしばある。若者の日本語が乱れているとの声もよく聞かれますが、いつの時代にも言葉の流行というものはある。ル言葉の多くは若者がよく使っている。「サボる」「事故る」などは若者に限らず使っている人も多いのではなかろうか。今回は、ル言葉の語構成・新旧の違いから10語を選び、それぞれの使用実態を調べていく。

<表1> 調査語の辞典類での初出状況

\*初出とは限らない

調査語	初出
ミスる	若者ことば辞典(1983)
告る	現代用語の基礎知識(1997)
パニックる	現代用語の基礎知識(1989)
ネグる	『朝日新聞』(1960年11月16日夕刊)(日本俗語大辞典より)
ボコる	現代用語の基礎知識(1998)
ダブる	『かくし言葉の字引』(1929)(日本俗語大辞典より)
ばくる(盗む)	『かくし言葉の字引』(1929)(日本俗語大辞典より)
ばくる(逮捕する)	『隠語符牒集』(1948)(隠語大辞典より)
キョどる	現代用語の基礎知識(2000)
無視る	日本俗語大辞典(2003)*

### 4、アンケート調査

今回のアンケート調査は、『日本俗語大辞典』『若者ことば辞典』『現代用語の基礎知識』『隠語大辞典』インターネット検索から語構成・使用時期の違いから10語を抽出し、性差、年齢差、地域差による使う状況を調査する。アンケート回答者の内訳を以下に示す。

<表2> 年代別

(単位:人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代~	計
男性	234	203	59	107	113	64	780
女性	205	329	106	147	115	70	972
無記入	4	2	2	2	5	5	15
合計	443	534	167	256	233	134	1767

(3)

&lt;表3&gt; 職業別 (単位:人)

学 生	社会人	その他	無記入
856	770	108	33

&lt;表4&gt; 出身別 (単位:人)

山口	広島	福岡	長崎	佐賀	大分	宮崎	島根	岡山
781	127	122	117	110	98	83	63	40
鳥取	香川	兵庫	愛媛	大阪	熊本	東京	鹿児島	千葉
32	27	27	18	17	17	11	8	7
北海道	沖縄	神奈川	京都	埼玉	和歌山	秋田	茨城	高知
7	5	4	4	4	4	3	3	3
徳島	新潟	岐阜	滋賀	富山	長野	奈良		
3	3	2	2	2	2	2		

青森、栃木、福井、山形、各1名、無記入5名

<表2>に示されているように、年代別では、10代、20代に集中している。<表4>の出身別では山口県に偏った結果になっている。アンケート用紙は、別添資料参照。

## 5、アンケート結果と分析

### 5-1 調査語別における年代別集計結果

各調査語のA(使う)、B(使わないが聞いたことがある)、C(聞いたことがない)の選択率の実数結果を<表5>に示す。語の前にある番号はアンケート調査語の番号である。

&lt;表5&gt; 調査語における年代別集計結果(実数) (単位:人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代~	合 計
①ミスる A	410	480	131	201	144	52	1418
B	33	53	36	51	82	57	312
C	0	1	0	4	7	25	37
②告る A	374	435	39	32	12	1	893
B	66	94	123	208	130	40	661
C	3	5	5	16	91	93	213
③パニクる A	326	423	120	150	127	25	1171
B	104	103	44	104	94	68	517
C	13	8	3	2	12	41	79
④ネグる A	1	5	1	5	9	5	26
B	17	21	11	13	16	9	87
C	425	508	155	238	208	120	1654

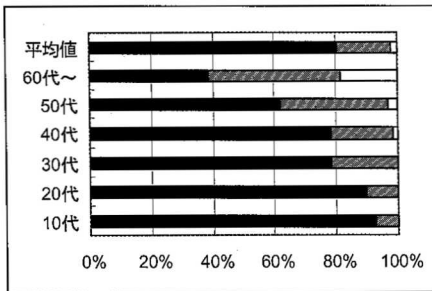
(4)

⑤ポコる	A	199	203	8	60	0	1	471
	B	226	301	79	97	36	10	749
	C	18	30	80	153	197	123	601
⑥ダブる	A	352	439	144	216	188	76	1415
	B	74	59	14	24	30	39	245
	C	17	36	9	16	15	19	112
⑦ぱくる	A	394	462	72	86	58	22	1094
	B	43	66	87	153	157	80	586
	C	6	6	8	17	18	32	87
⑧ぱくる	A	88	145	51	57	49	19	409
	B	202	269	101	185	167	80	1004
	C	153	120	15	14	17	35	354
⑨キョどる	A	246	342	19	15	3	1	626
	B	130	161	79	82	29	15	496
	C	67	31	69	159	201	118	645
⑩無視る	A	231	333	11	29	12	10	626
	B	132	135	59	74	56	33	489
	C	80	66	97	153	165	91	652

## 5-2 年代別集計結果の百分率グラフ

上記<表5>の百分率を以下のグラフに示す。グラフ内の■はA「使う」を示し、▨はB「使わないが聞いたことがある」を示し、□はC「聞いたことがない」を示す。次に個々の語について全体の選択率、年代別の選択率を見ていく。

## ①ミスる



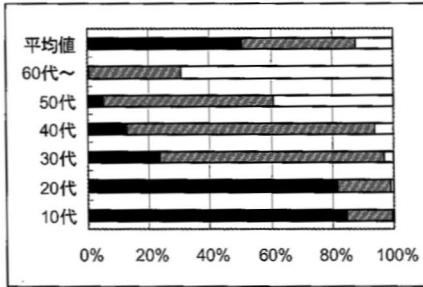
「ミスる」は外来語の「ミス」に動詞化する「る」をつけ、「失敗する」という意味である。全体の選択率は、「使う」が80.2%、「使わないが聞いたことがある」が17.7%、「聞いたことがない」が2.1%選択している。年代別に見ると、10代から40代の使用率は7割以上を超えている。50代以上はやや少ないが、「使わないが聞いたことがある」を3割選択し、全体的な認知率は高いと言える。「ミスる」の選択率はか

なり高く、広く使用され、一般的になっていると思われる。

## ②告る

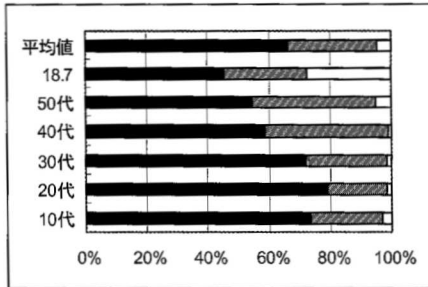
「告る」は「告白する」という意味で、最近若者同士でよく使うようだ。「罪を告白する」と

(5)



いう意味はなく、「好きな人に気持ちを伝える」という意味のみである。全体の選択率は「使う」が50.5%、10代、20代が8割以上選択している。30代から50代は「使わないが聞いたことがある」の選択率が多く、60代はほとんど聞いたことがない。「告る」は本来の「告白する」より軽薄な感じがし、軽いイメージがあるので30代以上の人はたとえ知っていても、あまり使わない傾向にあるようだ。

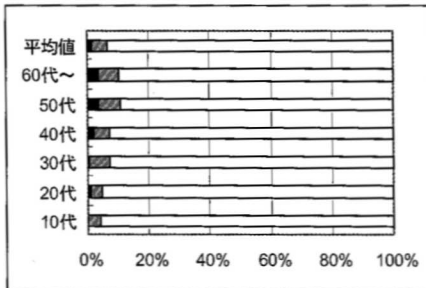
### ③パニクる



外来語の「パニック」の変化した形「パニク」に動詞化する接尾語「る」をつけたもので、あわてふためくという意味で使われている。「パニる」とも言うが、「パニクる」のほうが原語を再生しやすいため多く使われている。全体の選択率は「使う」が66.3%、10代から50代は5割以上を選択している。60代以上の選択率は少ない。10代、20代の選択率は約8割である。1980年代からある言葉で、広く使用されている

ようである。

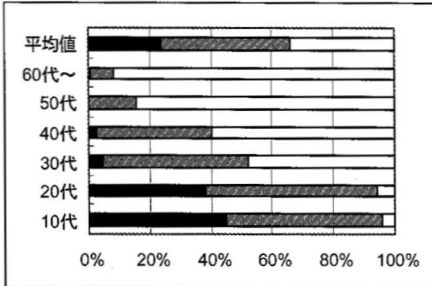
### ④ネグる



外来語の「neglect」を省略した「ネグ」の動詞化したもので、「無視する、おろそかにする」という意味である。全体の選択率は「聞いたことがない」という回答が93.6%である。どの世代も認知率はかなり低く、あまり差が見られなかった。「ネグる」は一般的に普及していないようだ。1980年代の若者語だったが、次第に使われることがなくなっていったと考えられる。これは、英語の「neglect」(無視する)

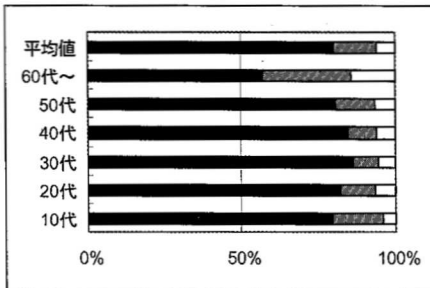
から来た言葉で、ある事象を取り扱うときに、影響の小さい(と考えられる)要因を無視して、考慮しない時に使うようである。

## ⑤ボコる



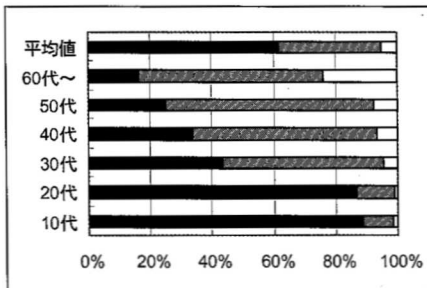
擬音語の一部から成る「ボコる」は「ぼこぼこに殴る」という意味である。全体の選択率は「使う」が23.6%、「使わないが聞いたことがある」が42.4%、「聞いたことがない」が34.0%である。10代、20代の使用率が約4割程度で、30代以上はあまり使用されていない。「ぼこる」のように語頭に濁音がかかる言葉は汚いという印象を受け、ある程度年を重ねると自然に使わなくなるのではないと思われる。

## ⑥ダブる



「ダブる」は英語 *double* を動詞化したもので、重なるという意味である。全体の選択率は「使う」が80.1%である。60代以上の使用率も56.7%を占めている。今回のアンケートの調査の項目の中でもっとも、年代を問わず使用する傾向が見られた。かつては、「若い男女が二人連れだって歩く」意でも用いられたことがあるようだが、本調査の文例はその意ではない。

## ⑦ばくる

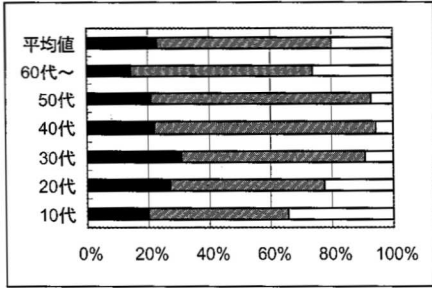


例文1「コンビニで立ち読みしたら、傘をばくられた」の「ばくる」は「捕縛」から出た言葉で、「盗む、万引きする」という意味である。

全体の選択率は「使う」が61.9%である。10代、20代の使用率は8割以上を占めるが、30代以上の使用率は少なく、半分以上の人が「使わないが聞いたことがある」を選択している。年代を問わず、広く使われているかと予想したが、

結果は意外だった。使用率は、若者語の典型的なパターンを示している。「盗られる」という意味の「ばくられる」だが、アンケート自由記述欄からみると、この「ばくられる」を使用すると罪も軽くなるような感じを受ける人もいた。

## ⑧ばくる

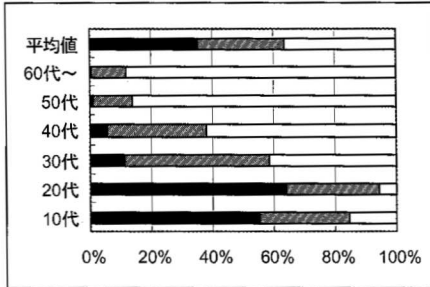


9割以上とかなり高い。

例文2「犯行がばれてばくられた」の「ばくる」は「捕縛する」の略語からできた語で例文1と違い、「逮捕する」意味である。全項の⑦と⑧は窪田(2006)の言う語頭の2モーラを残した短縮形ではない点が他の語とは異なる。

全体の選択率は「使う」が23.1%、「使わないが聞いたことがある」が56.8%、「聞いたことがない」が20.0%である。どの世代も使用率は2割前後になるが、30代から50代の認知率は

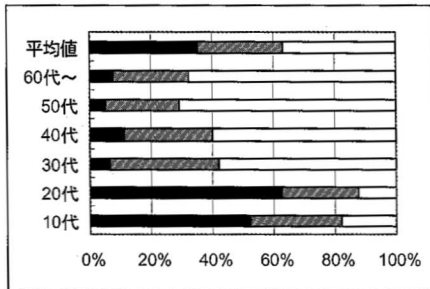
## ⑨キョどる



の理由と考えられる。

「キョどる」は「挙動不審」という言葉から、「挙動」の短縮形に動詞化する接尾語「る」をつけたものである。全体の選択率は「使う」が35.4%、「使わないが聞いたことがある」が28.1%、「聞いたことがない」が36.5%である。10代、20代の使用率が5割以上であるのに対して、30代以上の使用率が極端に少ない。2000年の『現代用語の基礎知識』に「キョどる」が掲載されており、新しい若者ル言葉であることがそ

## ⑩無視る



新しく発生した若者ル言葉であることが、その理由と考えられる。

「無視る」は「無視する」を短縮したものである。全体の選択率は「使う」が35.4%、「使わないが聞いたことがある」が27.7%、「聞いたことがない」が36.9%である。10代、20代の使用率は5割前後で、30代になると6割程度の人が聞いたことがなく、「使わないが聞いたことがある」を選択した人も3割程度である。2003年の『日本俗語大辞典』以外の初出確認はできていないが、前項の「キョどる」同様、

## 5-3 男女別集計結果

＜表6＞は選択率を男女別に集計したものである。

＜表6＞ 男女別集計結果

選 択 区 分	男性 (実数)	男性 (百分率)	女性 (実数)	女性 (百分率)
A (使う)	3697	47.4	4345	44.7
B (使わないが聞いたことがある)	2106	27.0	2983	30.7
C (聞いたことがない)	1997	25.6	2392	24.6

＜表6＞を見ると、男女の選択率はほぼ同等で、大きな差は見られなかった。

## 5-4 調査語別に見た男女差集計結果

各調査語のA (使う)、B (使わないが聞いたことがある)、C (聞いたことがない) の選択率の結果を＜表7＞に示す。

＜表7＞ 男女別による使用率

(単位：%)

調査語	男	女	調査語	男	女
①ミスる A	84.4	77.0	⑥ダブる A	78.6	81.3
B	13.7	20.8	B	15.1	12.3
C	1.9	2.3	C	6.3	6.4
②告る A	48.3	52.7	⑦ばくる A	68.8	56.6
B	35.9	38.4	B	26.7	38.0
C	15.8	9.0	C	4.5	5.3
③パニックる A	60.1	71.3	⑧ばくる A	33.3	15.2
B	34.0	25.4	B	49.6	62.4
C	5.9	3.3	C	17.1	22.3
④ネグる A	2.7	0.5	⑨キョどる A	31.5	38.9
B	5.5	4.5	B	27.1	28.8
C	91.8	95.0	C	41.4	32.3
⑤ボコる A	33.7	15.5	⑩無視る A	32.4	38.0
B	34.6	48.8	B	27.8	27.4
C	31.7	35.7	C	39.7	34.6

男女に違いが見られたのは⑤「ボコる」と⑦と⑧の「ばくる」である。⑤「ボコる」の使用率は女性より男性のほうが18.2ポイント高かった。女性は知っていても、会話で使うことはなく、またそのような行為も少ないと思われる。⑦の「ばくる」は男女間で、12.2ポイント⑧の「ばくる」は男女間で18.1ポイントの使用率の差が見られ、それぞれ男性の方が女性より多く使用していることがわかる。他の語の選択率は大差がなく、男女による差異は見られなかった。



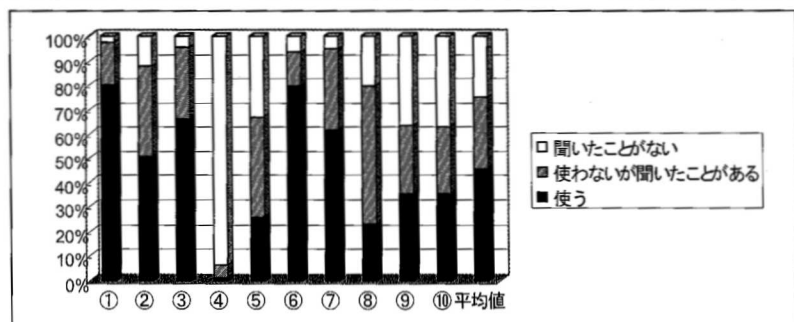
## 5-5 調査語別による集計結果

調査語の選択区分を集計したものを<表8>に示す。下の<図1>は<表8>をグラフ化したものである。

&lt;表8&gt; 項目別による集計結果

(単位：%)

区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	平均値
A	80.2	50.5	66.3	1.5	26.7	80.0	62.0	23.1	35.4	35.4	46.1
B	17.7	37.4	29.3	4.9	42.4	13.9	33.2	56.8	28.0	27.7	29.1
C	2.1	12.1	4.5	93.6	34.0	6.4	5.0	20.0	36.5	36.9	25.1



&lt;図1&gt; 項目別集計結果

今回のル言葉に関するアンケートでは、①「ミスる」③「パニックる」⑥「ダブる」の使用率は高く、一般的になってきているのではないと思われる。②「告る」⑤「ぼこる」⑦「ぼくる(盗む)」⑨「キョどる」⑩「無視る」は10代、20代が主に使用し、若者語の典型例であることがわかる。今回のアンケートで認知率が一番低かったのは④「ネグる」である。ほとんどの人が聞いたことがないという結果になっている。「ネグる」は無視する意味以外に除外する意味で、コンピューター技術者が、任意の条件のデータを除外するときに「ネグる」を使うようだ。⑦「ぼくる(盗む)」から「そっくりまねをする」と意味で「ネタをぼくる」と使う場合もあるようだ。⑧「ぼくる(逮捕する)」は、どの世代でもあまり使われていないが、30代から50代の認知率が10代、20代より高い結果になっている。

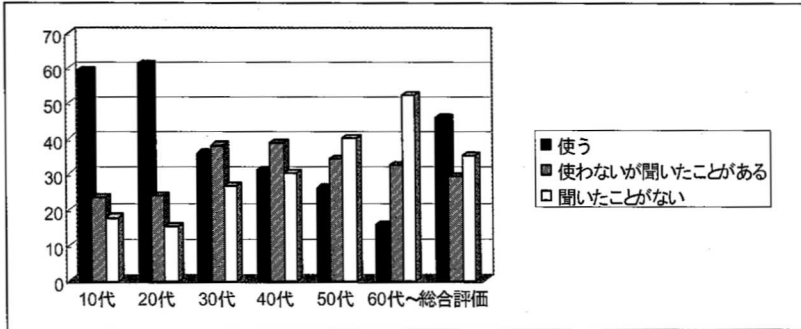
## 5-6 年代別集計結果

ル言葉の選択・使用率を年代別に集計したものを次の<表9>に示す。<図2>は<表9>をグラフ化したものである。

&lt;表9&gt; 年代別集計結果

(単位：%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	総合評価
A	59.2	61.2	35.7	31.1	25.8	15.8	46.1
B	23.2	23.6	37.9	38.7	34.2	32.2	29.1
B	17.7	15.2	26.4	30.2	40.0	52.0	25.1



&lt;図2&gt; 年代別集計結果

<表9>に示したように10代、20代は「使う」を選択する割合が60%前後で、30代以降から、選択率もだんだん減っている。「聞いたことがない」は10代、20代は17%前後で、30代以降から徐々に上がっている。

## 6、アンケートにおける意見

アンケートの自由記述欄、「る言葉にどんな印象を受けますか」と聞いたところ、意見を見ると、プラス、マイナス、中立の三つに分かれた。次は主に内容をまとめたものである。

### 6-1 プラス意見（肯定的評価）

- ・ くださった印象 (10代・男性、20代・女性)
- ・ なかなか面白いと思う (20代・男性)
- ・ 時代の波に乗っている気がする (20代・男性)
- ・ 便利 (20代・女性)
- ・ 斬新な響きで、記憶に残りやすい (20代・男性)
- ・ 言葉がくずれるのであまりよくないとは思いますが便利 (20代・女性)
- ・ 言葉はつねに変化するものだから、時と場所また使う相手などを考えればいいと思う (30代・男性)
- ・ 言葉の進化 (50代・男性)

### 6-2 マイナス意見（否定的評価）

- ・ 親しい仲の人とは使いやすいが、きちんとしたあいさつなどでは使えない (10代・女性)

- ・軽い感じ (10代・女性、20代・男性)
- ・ちょっと馬鹿にされた気分 (10代・男性)
- ・少し知的ではない (20代・女性)
- ・教養がない (20代・女性)
- ・日本語の乱れ (40代・女性)
- ・意味が分からない言葉が多く、理解に苦しむ (40代・女性)
- ・時代の流れで仕方ないのでは、言葉も恒に変わっていくのも仕方ない。しかし、本質は変わってほしくない (40代・男性)
- ・正しい日本語が使われなくなった (50代・男性)
- ・気分が悪い (50代・男性)
- ・あまり聞きなれない (50代・女性)
- ・直接的で分かり易いが響きは悪い (50代・男性)
- ・乱暴な感じを受ける (50代・女性)

### 6-3 中立的な意見

- ・正しい言葉じゃないなと思いながら使ったり聞いたりする (10代・女性)
- ・あまり何とも思わない。でも正しい言葉だとは思わない (20代・女性)
- ・とくに違和感がないので普通に「る」言葉としてではなく日本語として使っていたものもある (20代・女性)
- ・「る言葉」を知らずに使っている言葉には違和感がないが、今時の若い人が使っていると日本語が乱れていると感じる (40代・女性)
- ・きれいではないが機能的である (40代・男性)
- ・TV等の影響で使う事もあるが目上の人にはほとんど使わない (50代・男性)
- ・日本語が乱れだと同時に若い人の発想は面白いと思う時もある。マスコミが安易に使いすぎるとも思う (50代・男性)

以上アンケートの意見を見ると、プラス、マイナス、中立の三つに分かれた。10代、20代には「軽い感じ」「乱れを感じる」などマイナス意見もあったが、「便利で、使いやすくなるとも思わない」というプラス意見が多かった。40代以上になると「乱れ」「きれいではない」「理解できない」という意見が多かった。40代以上は、違和感を感じる人が多かったが、「言葉が変わっていくのも仕方ない」という人もいた。若い人が使うことについてはある程度理解できるが、自分自身は使わないという意見があった。

ル言葉は言葉の乱れで、正しい日本語を使いましょうという意見があるが、果たして、ル言葉は正しい日本語ではないと言っていだろうか。恩村(2003)は次のように指摘している。日本語の母語話者なら、たとえそれが「コくる」のように本来のことばを短縮し、限られた人にしか使われていない若者ことばでも、誰もが同じように、無意識に、しかも瞬時に活用できるのである。なぜならば、そこに私たちが普段意識しないで使っている共有された「ことば」のルール「文法」があるからである。つまり、「コクって」「コくらない」「コくれば」など規

則的に五段活用をしている。冒頭に示した「退治る」はかつて上一段活用であったが、ル言葉として、インターネット上では五段活用している例が見られる。その他の本調査での対象語は、すべて五段活用である。

## 7、考察

### 7-1 「ネグる」について

同じ外来語からできた「ミスる」「パニックる」「ダブルる」「ネグる」などは外来語を起源としたル言葉という点では共通しているが、「ネグる」の認知率は他の三つに比べてかなり低い。それはいろいろな原因が考えられるが、その一つに「ネグる」は元の語の「ネグレクト (neglect)」に復元しにくいとめと考えられる。「ミスる (miss)」「パニックる (panic)」「ダブルる (double)」はももとの外来語の発音に近く、復元しやすい。しかし、「ネグる」は「ネグレクト」の「ネグ」の語頭の2モーラ (拍) だけを残り、後ろの3モーラ (拍) を省略しているから、元の外来語を復元しにくいと考えられる。

同じ無視する意味の「ネグる」と「無視る」も「ネグる」のほうが「無視る」より認知率は低い。「無視る」と「ネグる」を比べても漢語は意味に透明で分かりやすいが、カタカナ語は意味に不透明であり、分かりにくい点が対照的である。

<表10> 外来語ル言葉と漢字ル言葉の比較 (単位：%)

	外来語ル言葉	漢字ル言葉
使用率	55.7	51.2
認知率	71.4	78.4

漢字ル言葉の使用率が少ないわりに認知率が外来語ル言葉より高い。たとえば、「告る」「無視る」という言葉を知らなくても、意味が推測しやすいために認知率は高くなるのではないだろうか。つまり、漢字ル言葉は外来語ル言葉より意味に透明で分かりやすいと言えるのではないかと考えられる。

「ネグる」が80年代の若者語だとしたら、現在の40代、50代の人たちの認知率が高いと予想されたが低かったのはなぜだろうか。「ネグる」はその当時の若者語と言っても、主にビジネス用語で、仲間同士で使っていたようである。工作中、上司に報告しなくてはいけない場合も、自分の都合の悪いことなどをあまり言いたくない時に、「ネグった」と言って、都合の悪いことを隠すとか、省略する時に使われていたようだ。つまり、狭い範囲で使われていたために一般化しなかったのではないかとと思われる。

### 7-2 「ボコる」について

調査語の中で、同じ語頭に濁音がかかる語は「ダブルる」と「ボコる」である。「ダブルる」の選択率が多くて「ボコる」の選択率が少なかった。同じように語頭に濁音がきて、汚い印象があるはずなのに何故「ダブルる」は多くて「ボコる」は少なかったのだろうか。「ダブルる」と「ボコる」はカタカナのル言葉としては共通しているけど、「ボコる」は擬音語を起源とした語で、「ダブルる」は外来語を起源とした言葉である。

「ダブる」は男女関係なく使うが、「ボコる」は男は使うけど、女はあまり使わないから選択率が少ないのではないか。本調査では男女による大差はあまり見られなかったが、「ボコる」は男性の選択率は高かった。梶村(2005)はル言葉の一つと考えられる「はみる」(集まりから孤立し、仲間外れの状態になるの意)の社会言語学的考察で、女性の方が男性よりも使用率が高いと述べている。男性に多い「ボコる」と女性に多い「はみる」は男女の喧嘩のしかたの違いによるのではないかとする意見もある。

全体の選択率を年代別にみると、年代が上がるにつれて使用率が下がっている。「使う」のは10代～30代ぐらいで、上の年代になってくると「使う」よりは「聞く」程度になるのではないと思われる。年齢があがれば、使用者が減っている結果になっているが、「ミスる」、「パニックる」「ダブる」など高年齢層にもある程度一般化しているル言葉もあった。これらのル言葉は、外来語から出たもので他に適切な言葉が思い浮かばないので、あまり違和感なく広く使われてきたのではないと思われる。「ばくる(盗む)」のほうは、10、20代によく知られているのに対して、「ばくる(逮捕する)」は30代から50代のほうがよく知っている。「ばくる(逮捕する)」は80年代に刑事もののテレビ番組が多く、30～50代の人が結構知っているのは、その辺りの社会現象も起因していると思われる。反対に「告る」「ボコる」「キョどる」「無視る」などはあまり知られておらず、その選択率は10、20代と30代以上との間には歴然とした差がある。

## 8、今後の課題

本調査では、主に辞典から抽出した語をアンケートの形で例文を示し、ル言葉の使用実態を調べたが、雑誌、インターネットの検索などを通してより深く調べていきたい。また、語構成からの分析も詳しく検討していきたい。今後、ル言葉の男女差による違いもより深く調べる必要がある。また、回答者の年代は10代、20代が50%以上を占め、その他の年代との格差が大きかった。今後比較・分析を行うためにはさらに広く中高年齢層のデータを収拾する必要があるだろう。

## 参考文献

- 米川明彦(1996)『現代若者ことば考』丸善株式会社  
 米川明彦(1998)『若者語を科学する』明治書院  
 米川明彦(1997)『若者ことば辞典』東京堂出版  
 米川明彦(2003)『日本俗語大辞典』東京堂出版  
 稲垣吉彦(2006)『若者ことばクロニクル』『月刊言語』3月号 大修館 pp.34-39  
 窪蘭晴夫(2006)『若者ことばの言語構造』『月刊言語』3月号 大修館 pp.52-59  
 三宅知宏(2002)『「乱れ」と規則性』『月刊言語』8月号 大修館 pp.48-51  
 梶村知美(2005)『「ることば」の社会言語学的考察～「はみる」類を中心に～』  
 全国語学教育学会・日本教育カウンセラー協会『山口支部研究紀要』第10号  
 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子(2003)『新世代の言語学』くろしお出版  
 木村義之・小出美河子(2000)『隠語大辞典』皓星

(テイ・コウラン)

別添資料

## 「る言葉」に関するアンケート

今、日本語で「る」がついて新たに動詞を作る言葉、例えば「サボる」のように「サボタージュ」の略「サボ」に動詞化する接尾語「る」をつけた言い方のことを「る言葉」と言います。以下のアンケート調査にぜひご協力お願い致します。

質問1. 以下の文章の「る言葉」について「A. 使う」「B. 使わないが聞いたことがある」「C. 聞いたことがない」をお答えください。

- ① 仕事でミスったことは今までほとんどないと言える。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ② 昔、好きな人にこく告った事がある。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ③ 知らない単語が出て来るとパニックってしまいます。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ④ そのとき一緒に書こうかとも思ったのだけど、面倒になってネグったことがある。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑤ 気に入らない相手をとにかくボコるのが趣味。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑥ 他の賞とダブった方には別の粗品をお送りします。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑦ コンビニで立ち読みしたら、傘をばくれた。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑧ 犯行がばれてばくれた。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑨ 「どうしたの? なにキョどってるの?」  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない
- ⑩ 職場で挨拶しても無視る人がいます。  
 A. 使う                      B. 使わないが聞いたことがある                      C. 聞いたことがない

質問2. 「る言葉」を聞いたとき、どんな印象を受けますか。アンケート項目の他に、どんな「る言葉」を使っていますか。

---



---

出身 (                      ) 都・道・府・県      性別 (男・女)      職業 (学生・社会人・その他)  
 年齢 (10代・20代・30代・40代・50代・60代~)

ご協力ありがとうございました